

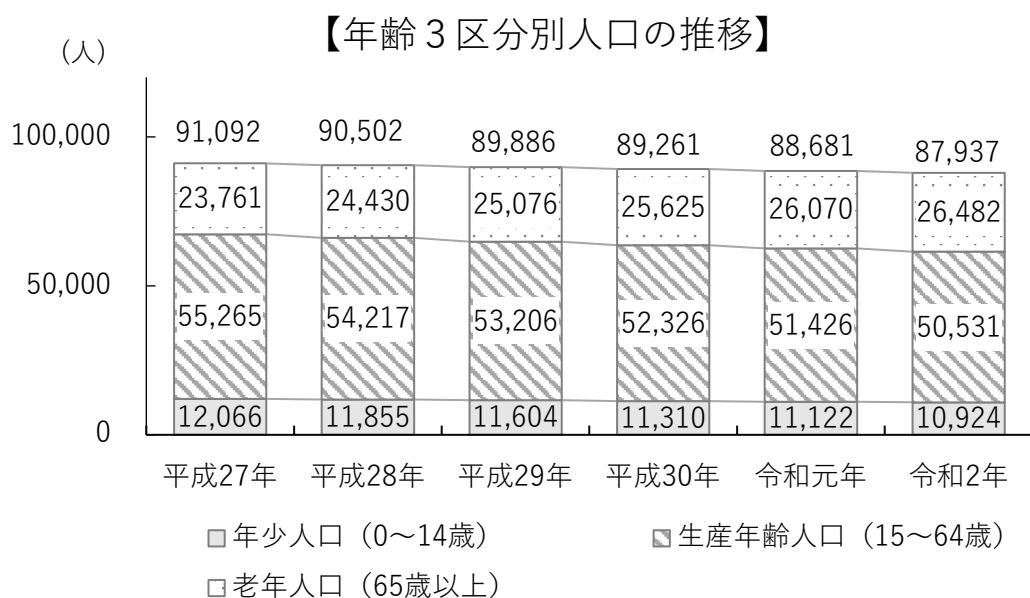
第2章 亀岡市の現状

1 人口構成と推移

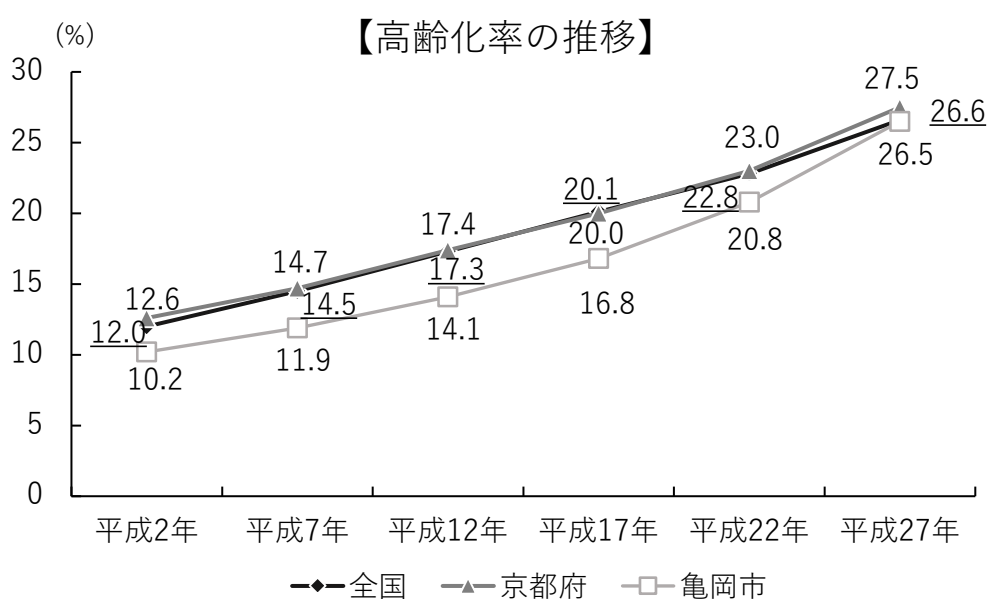
総人口は減少を続けており、令和2年は87,937人と、平成27年からの5年間で約3,200人減少しています。

年齢3区分別人口をみると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は増加を続けています。

老年人口の増加に伴い高齢化率の上昇を続け、約3.8人に1人が高齢者となっています。

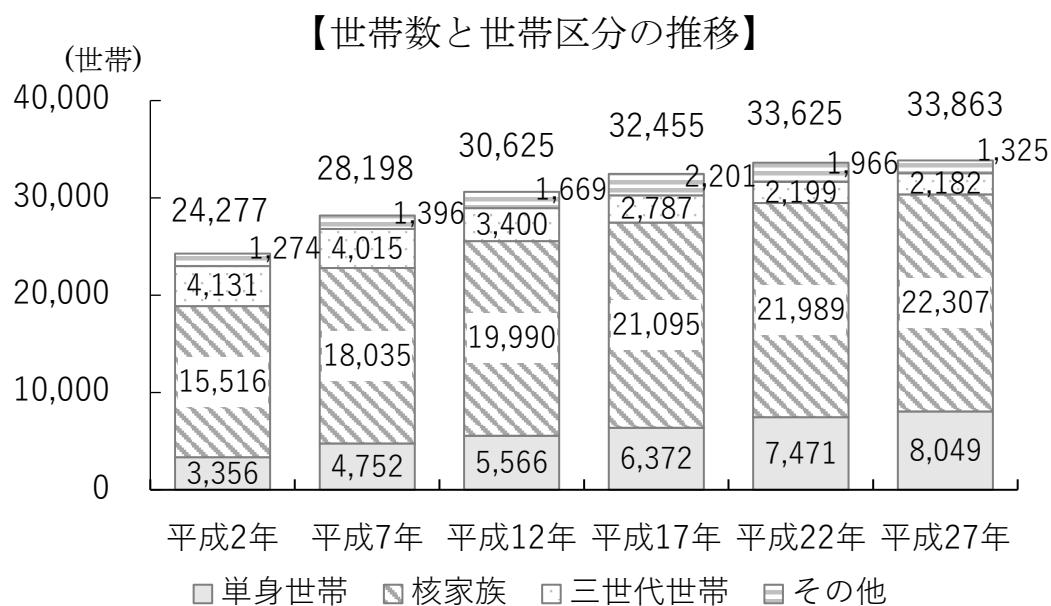


資料：住民基本台帳



資料：国勢調査

国勢調査によると、世帯数は増加傾向にあり、平成 27 年には 33,863 世帯となっています。内訳をみると、単身世帯と核家族が増加している一方で、三世代世帯は年々減少傾向にあります。

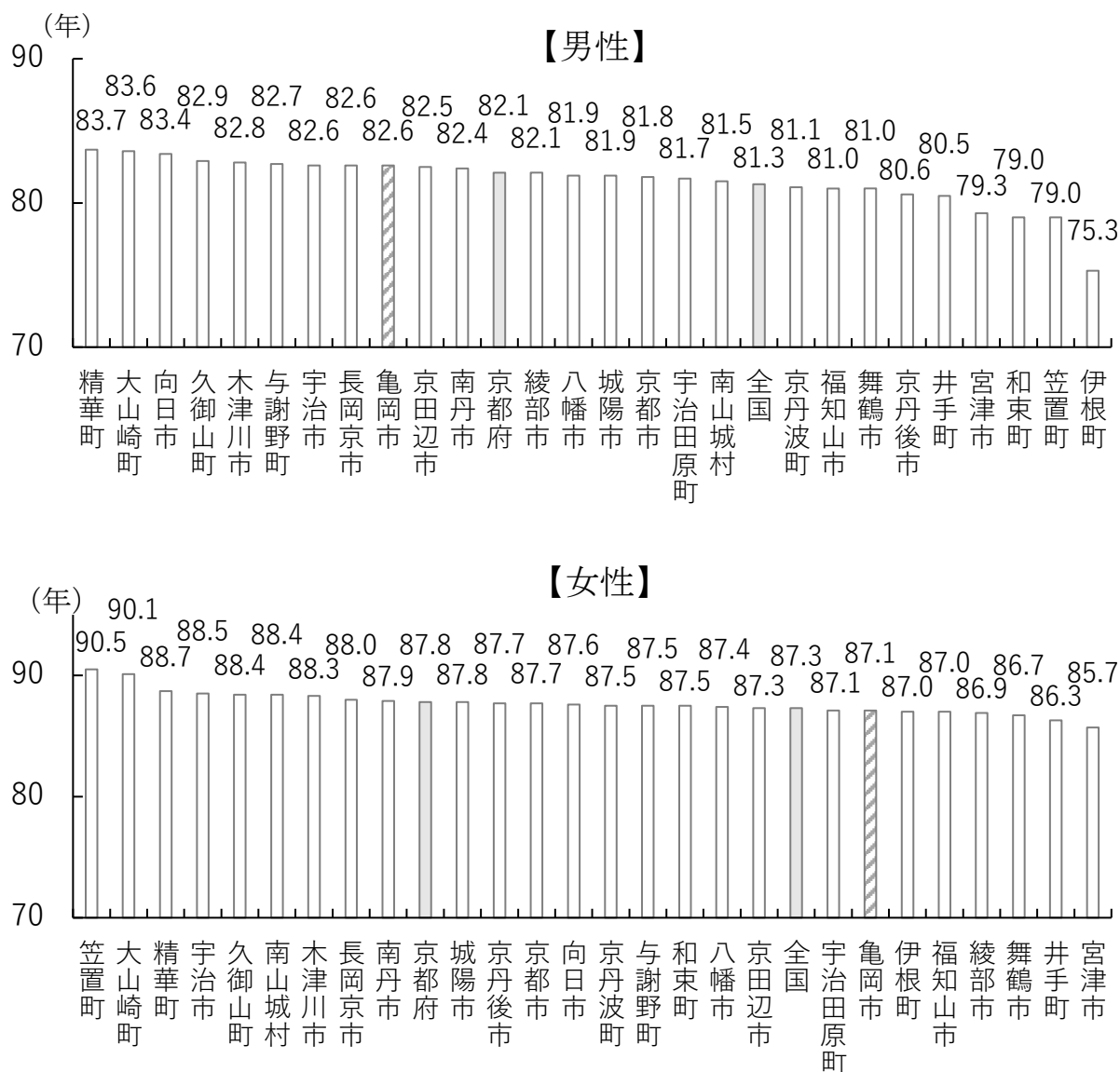


資料：国勢調査

2 平均寿命と健康寿命

平均寿命は、平成 30 年では男性で 82.6 年、女性で 87.1 年となっており、全国及び京都府と比較すると、男性では高い値、女性では低い値となっています。

【平均寿命・府下自治体別平均寿命（平成 30 年）】

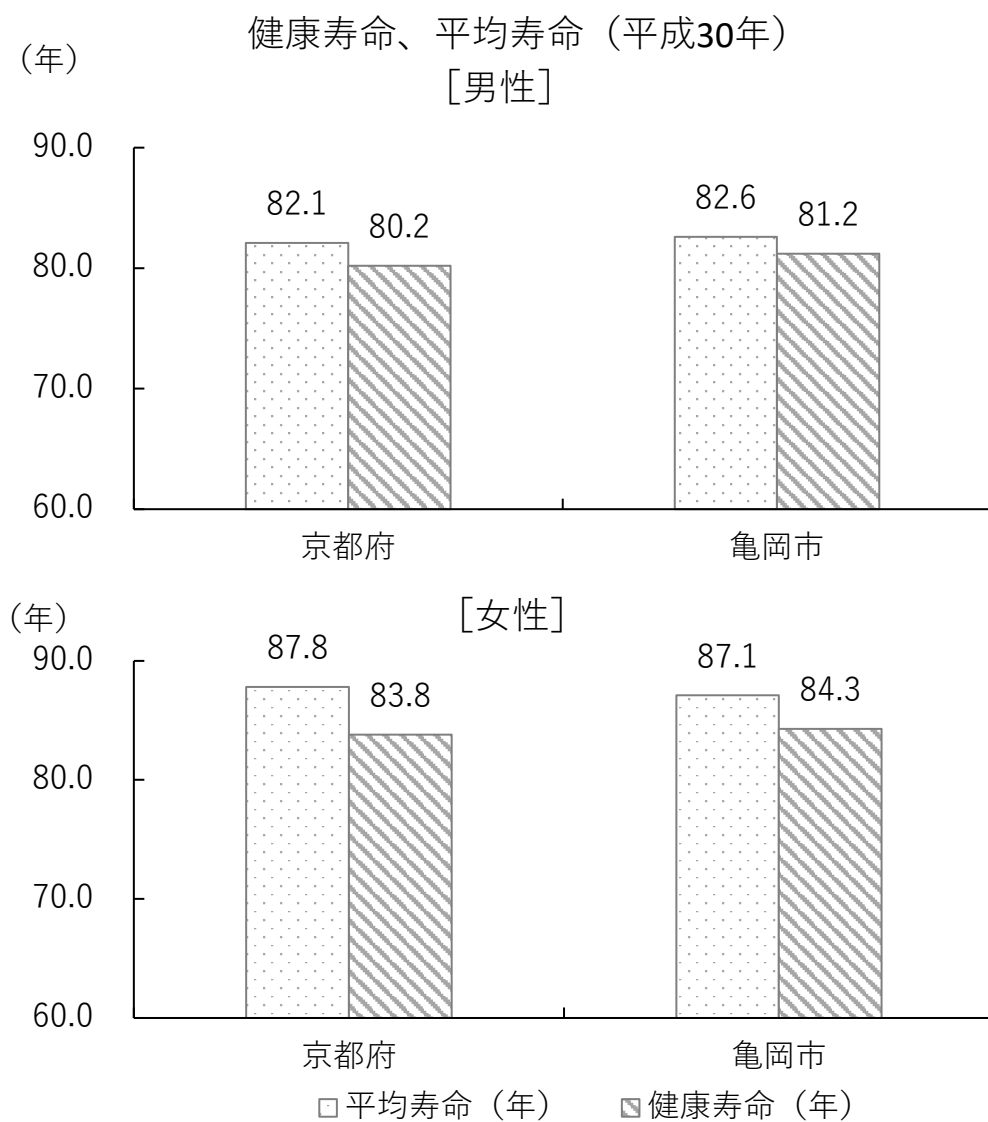


資料：国民健康保険中央会

＜健康寿命、平均寿命＞

「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる時間」と定義される健康寿命は市町村では算定が困難であるため、これに替えて日常生活動作が自立している期間の平均（＝平均自立期間）で比較すると、男性は81.2年で京都府よりも1.0年長く、女性は84.3年で京都府よりも0.5年長くなっています。

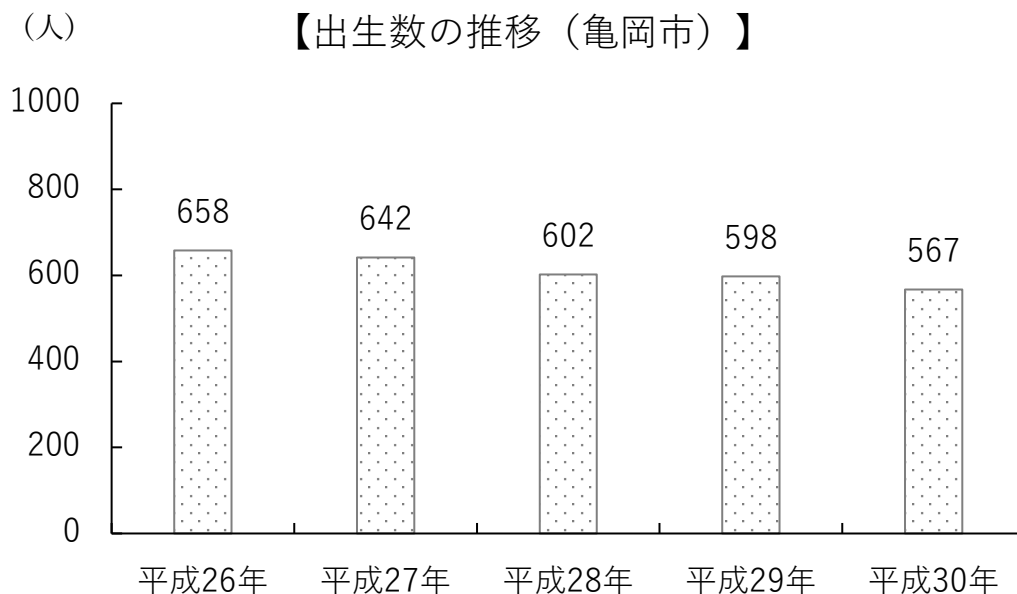
	男性		女性	
	京都府	亀岡市	京都府	亀岡市
平均寿命(年)	82.1	82.6	87.8	87.1
健康寿命(年)	80.2	81.2	83.8	84.3
平均寿命－健康寿命(年)	1.9	1.4	4.0	2.8



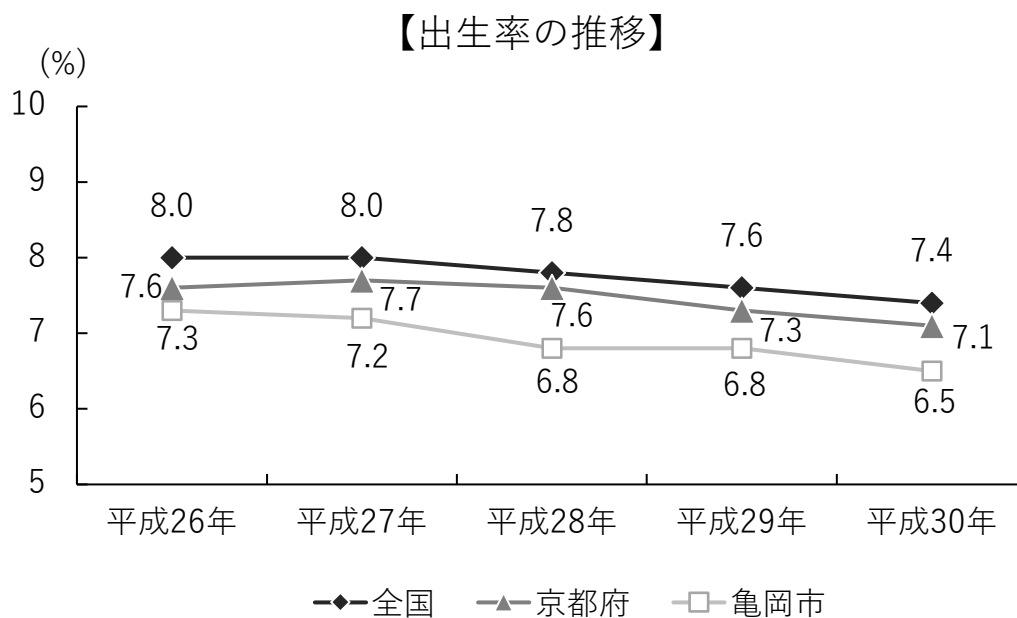
資料：国民健康保険中央会

3 出生・死亡の状況

出生数は減少傾向にあり、平成30年には567人となっています。これは出生率においても同様の傾向を示しており、全国や京都府と比較しても低い状況にあります。

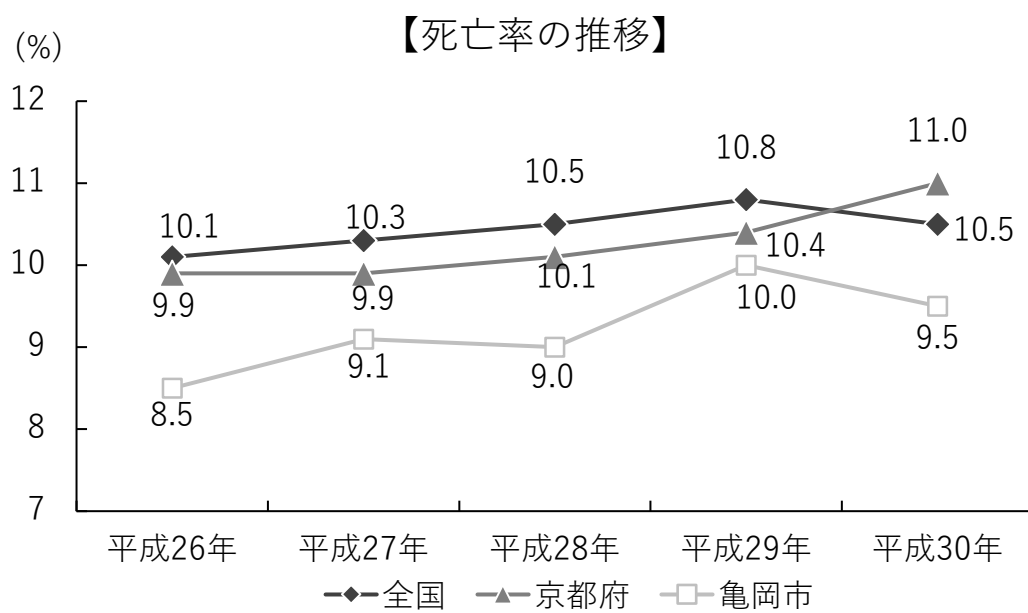


資料：京都府保健福祉統計



資料：京都府保健福祉統計

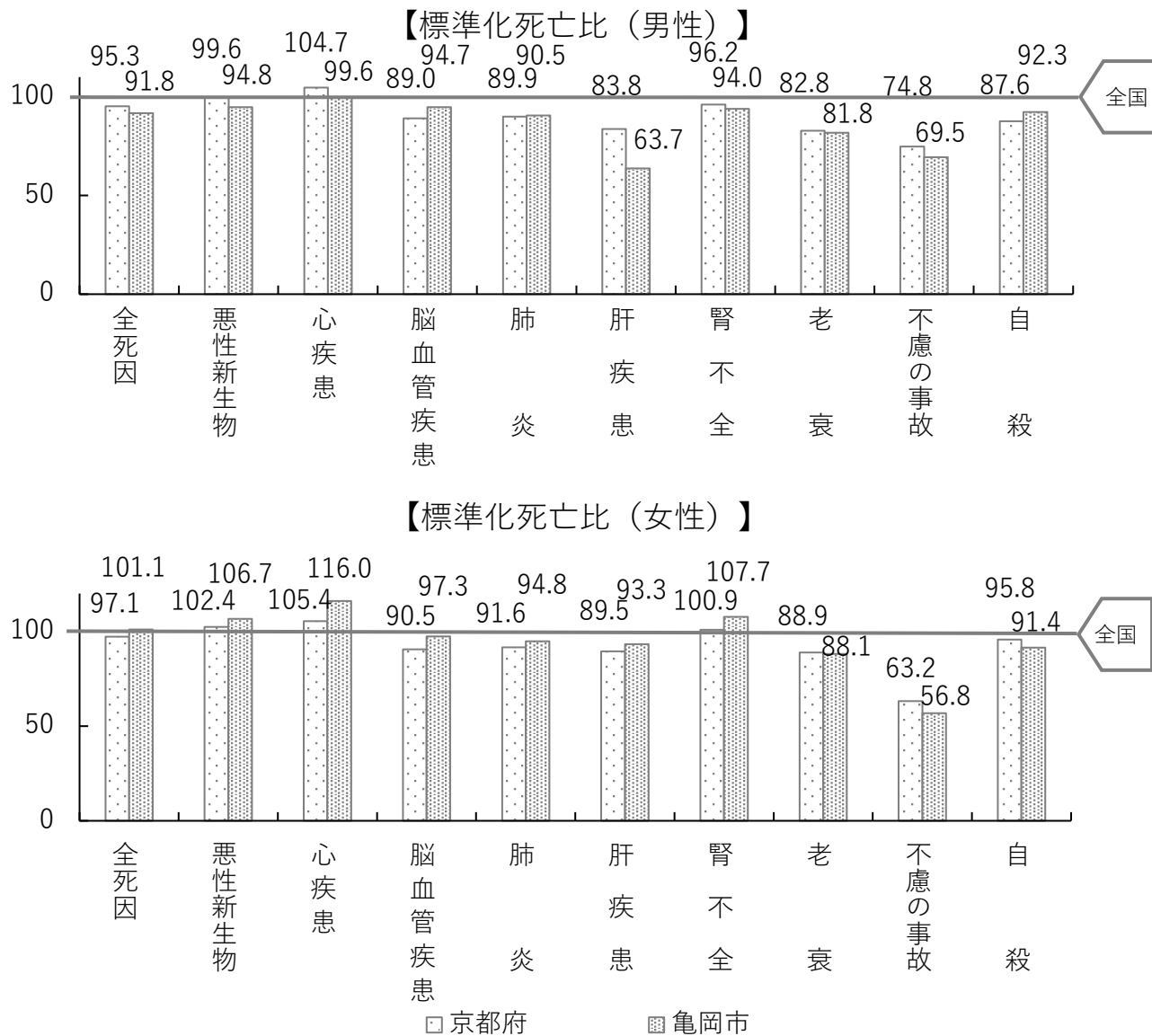
死亡率（年齢調整死亡率を用いていない）は、全国や京都府と比較し低い値ではあるものの、全体で上昇傾向にあります。



資料：京都府保健福祉統計

<標準化死亡比（SMR）>

全国を100（基準値）として標準化死亡比（SMR）を比較すると、男性では全国に比べて高い値は見られず、肝疾患、不慮の事故が低くなっています。一方、女性では全国に比べて心疾患、腎不全、悪性新生物が高く、不慮の事故で低くなっています。



資料：人口動態保健所・市町村別統計（平成25～29年）

*** 標準化死亡比（SMR）：**各地域の年齢階級別人口と全国の年齢階級別死亡率により算出された各地域の期待死亡数に対するその地域の実際の死亡数の比のこと。年齢構成の違いによる影響を除いて死亡率を全国と比較したものであり、主に小地域の比較に用いる。標準化死亡比が基準値（100）より大きい場合、その地域の死亡状況は全国より悪いことを意味し、小さい場合、全国より良いことを意味する。

＜死因別死亡割合＞

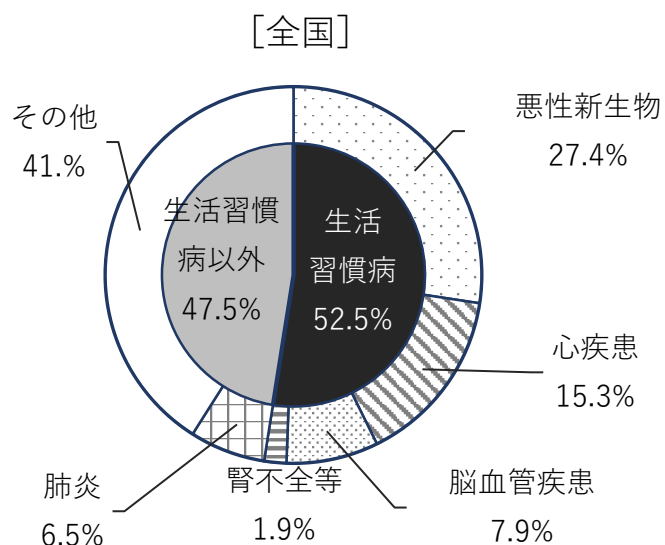
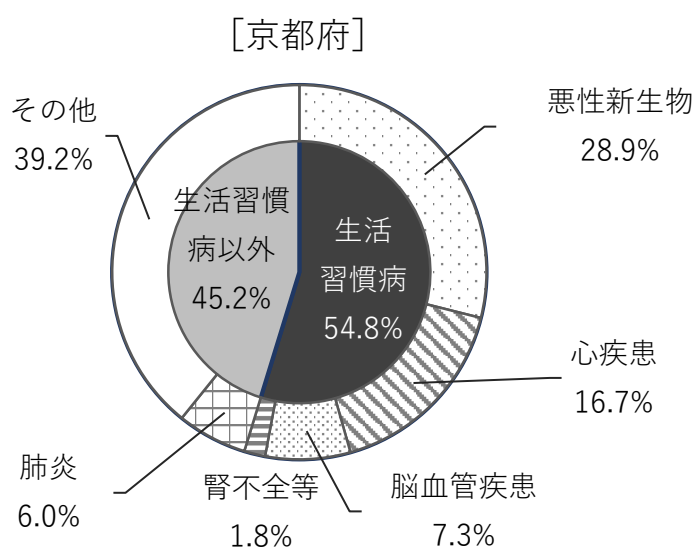
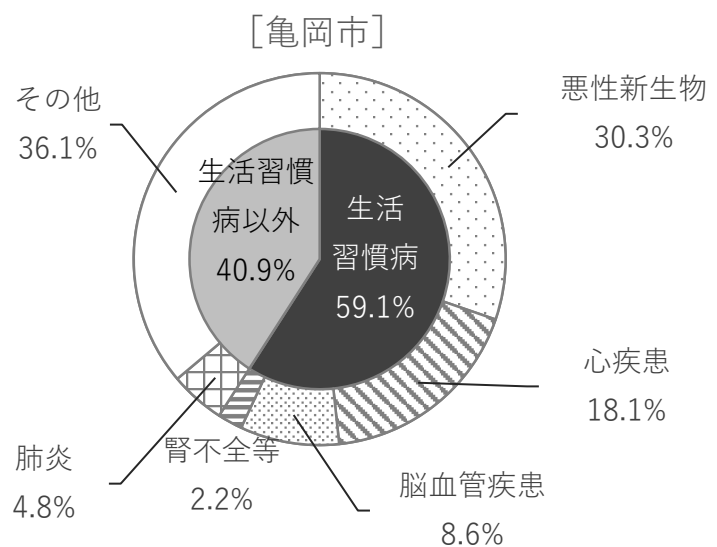
平成 30 年の亀岡市の死因別死亡割合をみると、悪性新生物が 30.3%と最も高く、次いで心疾患となっております。全国、京都府と同様の傾向がみられます。

		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
亀岡市	平成 26 年	悪性新生物 31.5%	心疾患 16.1%	脳血管疾患 8.9%	肺炎 7.8%	老衰／その他の 呼吸器系の疾患 5.3%
	平成 27 年	悪性新生物 28.3%	心疾患 18.7%	肺炎 9.5%	脳血管疾患 8.0%	その他の呼吸器 系の疾患 6.5%
	平成 28 年	悪性新生物 31.2%	心疾患 17.8%	脳血管疾患 8.2%	肺炎 7.4%	その他の呼吸器 系の疾患 7.0%
	平成 29 年	悪性新生物 32.1%	心疾患 16.5%	脳血管疾患 8.9%	肺炎 6.6%	老衰 4.9%
	平成 30 年	悪性新生物 30.3%	心疾患 18.1%	脳血管疾患 8.6%	老衰 5.4%	肺炎 4.8%
京都府	平成 26 年	悪性新生物 30.3%	心疾患 16.3%	肺炎 9.4%	脳血管疾患 8.3%	老衰 5.4%
	平成 27 年	悪性新生物 29.7%	心疾患 16.9%	肺炎 8.9%	脳血管疾患 8.2%	老衰 6.1%
	平成 28 年	悪性新生物 29.7%	心疾患 17.0%	肺炎 8.2%	脳血管疾患 7.9%	老衰 6.9%
	平成 29 年	悪性新生物 28.9%	心疾患 17.3%	脳血管疾患 7.6%	老衰 7.1%	肺炎 6.3%
	平成 30 年	悪性新生物 28.9%	心疾患 16.7%	老衰 8.0%	脳血管疾患 7.6%	肺炎 6.0%
全国	平成 26 年	悪性新生物 28.9%	心疾患 15.5%	肺炎 9.4%	脳血管疾患 9.0%	その他の呼吸器 系の疾患 5.9%
	平成 27 年	悪性新生物 28.7%	心疾患 15.2%	肺炎 9.4%	脳血管疾患 8.7%	老衰 6.6%
	平成 28 年	悪性新生物 28.5%	心疾患 15.1%	肺炎 9.1%	脳血管疾患 8.6%	老衰 7.1%
	平成 29 年	悪性新生物 27.9%	心疾患 15.3%	脳血管疾患 8.2%	老衰 7.6%	肺炎 7.2%
	平成 30 年	悪性新生物 27.4%	心疾患 15.3%	老衰 8.0%	脳血管疾患 7.9%	肺炎 6.9%

資料：人口動態保健所・市町村別統計

＜全死亡に占める生活習慣病による死因別死亡割合＞

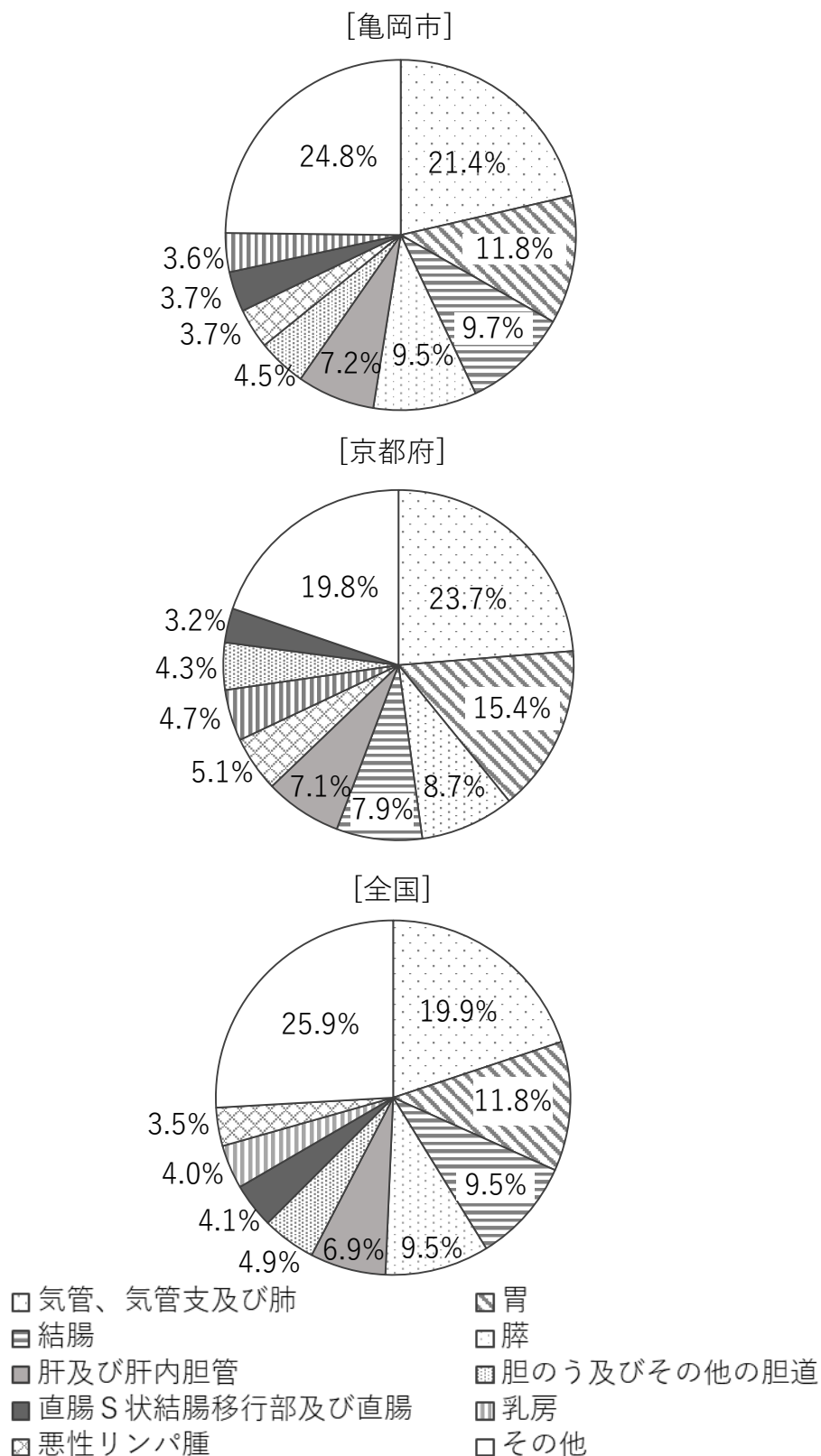
平成 30 年の全死亡に占める生活習慣病（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全等）による死亡は、亀岡市、全国、京都府いずれも 60%程度で、同様の傾向を示しています。



資料：人口動態保健所・市町村別統計

<死因における悪性新生物の部位別構成比（平成 30 年）>

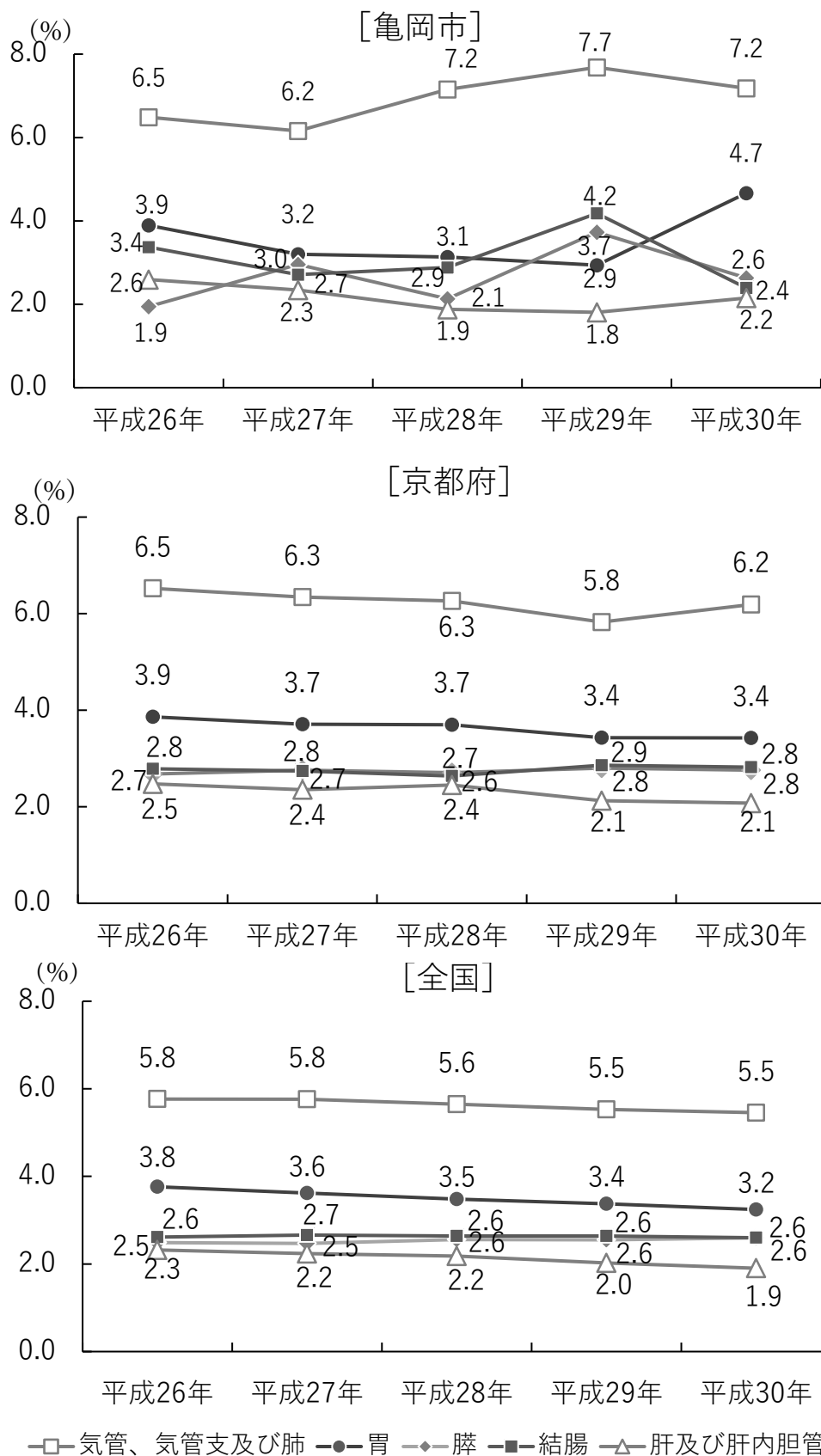
平成 30 年に悪性新生物で死亡した人の部位別構成比をみると、「気管、気管支及び肺」が 21.4%と最も高く、以下、「胃」11.8%、「結腸」9.7%、「膵」9.5%、「肝及び肝内胆管」7.2%となっており、上位 2 部位については全国や京都府と同様の傾向を示しています。



資料：人口動態保健所・市町村別統計

＜全死亡に対する悪性新生物の部位別死亡率の推移（上位 5 部位）＞

全死亡に対する悪性新生物の部位別死亡率（上位 5 部位）の推移をみると、平成 30 年に「気管、気管支及び肺」「膵」「結腸」で減少している一方で、「胃」「肝及び肝内胆管」は増加しています。



4 高齢者の状況

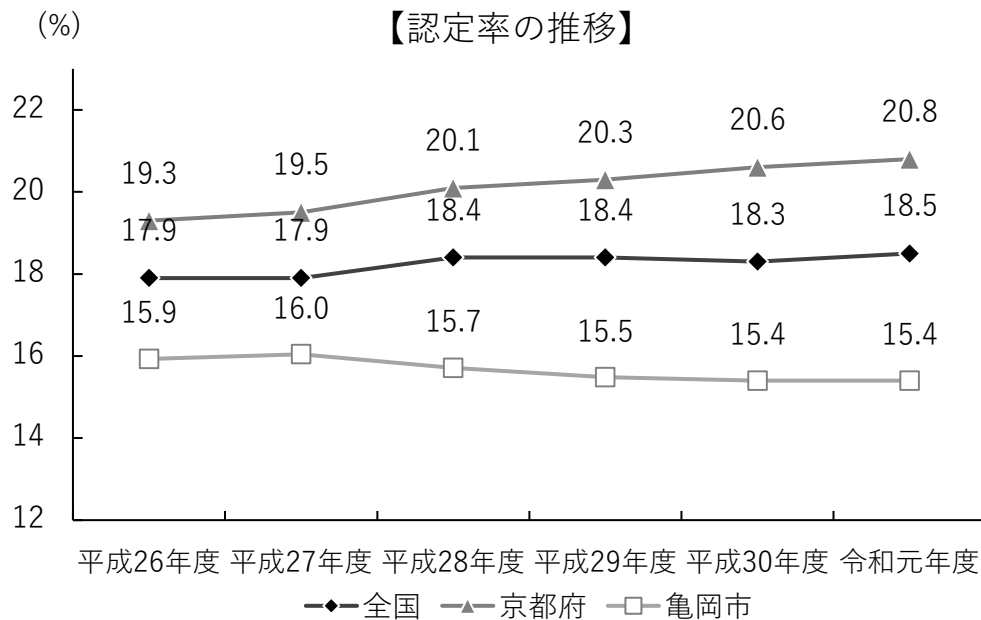
要介護者認定者数は年々増加し、平成26年度から令和元年度で約300人増加しています。認定率については全国や京都府よりも低い割合で推移しており、また平成27年度から減少傾向にあります。

【要支援・要介護認定者数の推移（亀岡市）】



資料：介護保険事業報告

【認定率の推移】

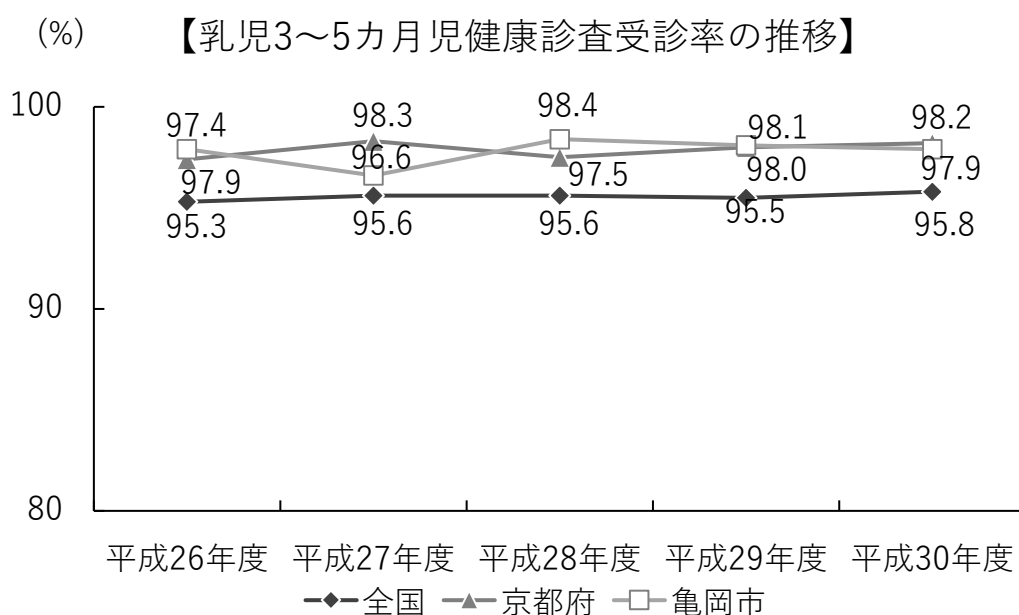


資料：介護保険事業報告

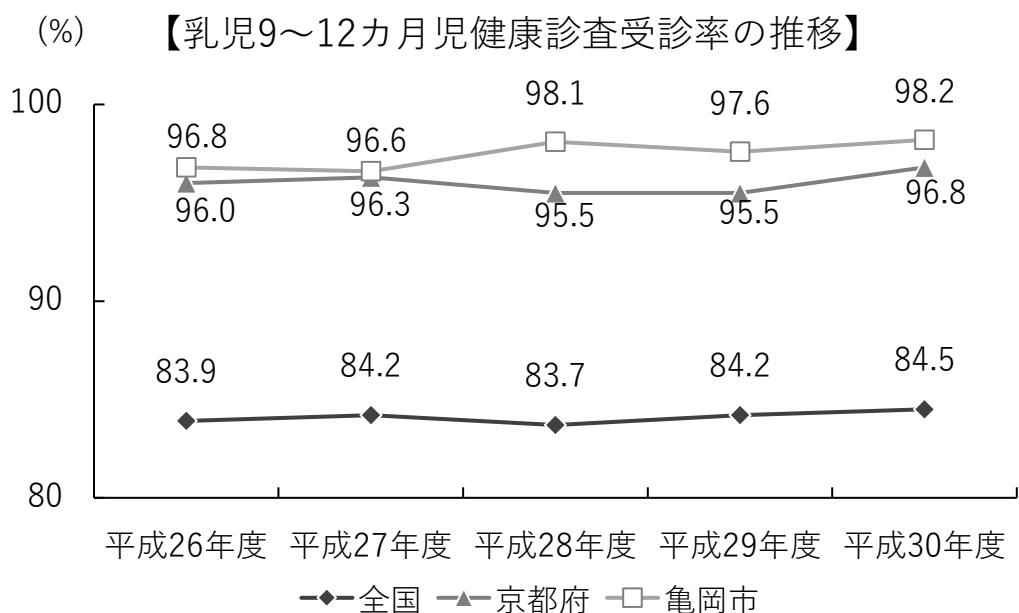
5 健康診査受診状況

＜乳幼児健康診査の受診状況＞

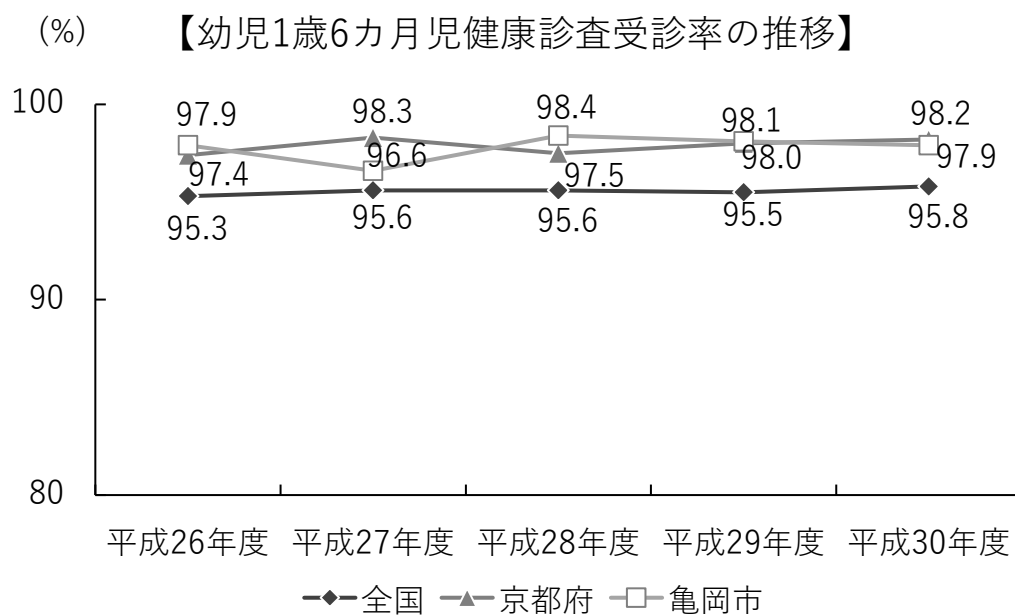
亀岡市では、乳幼児対象の健康診査として、4カ月児健康診査（乳児3～5カ月児健康診査）、11カ月児健康診査（乳児9～12カ月児健康診査）、1歳6カ月児健康診査、3歳児健康診査を実施しています。個々の健康診査の受診率をみると、それぞれ対象月（年）齢によって、年度によるばらつきがありますが、いずれの健診も各年度90%以上の高い割合で推移しています。



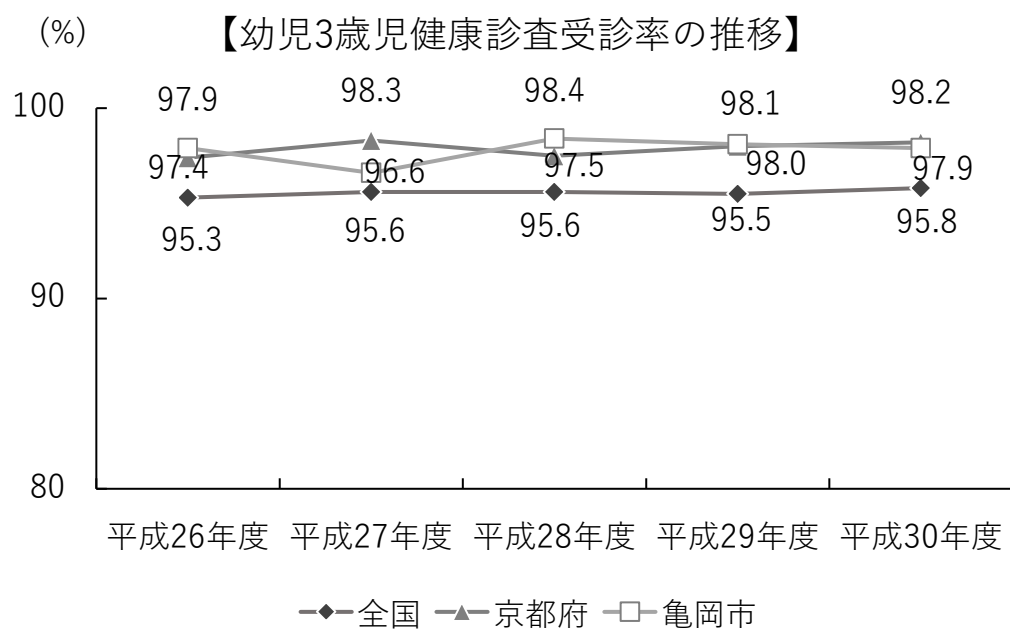
資料：地域保健・健康増進事業報告



資料：地域保健・健康増進事業報告



資料：地域保健・健康増進事業報告



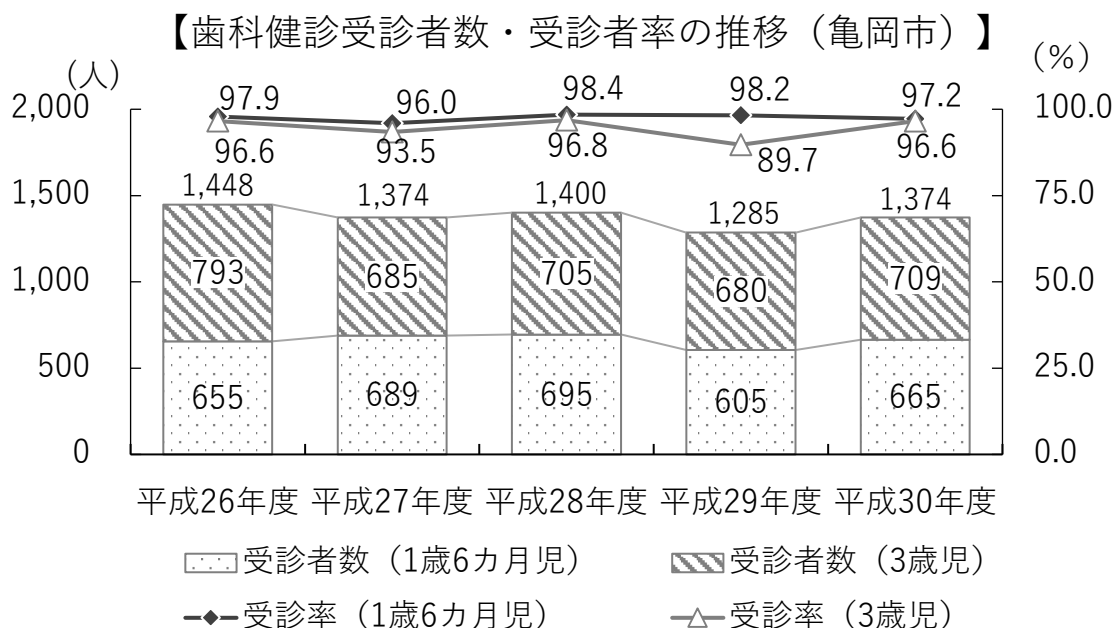
資料：地域保健・健康増進事業報告

＜乳幼児の歯科検診の受診状況＞

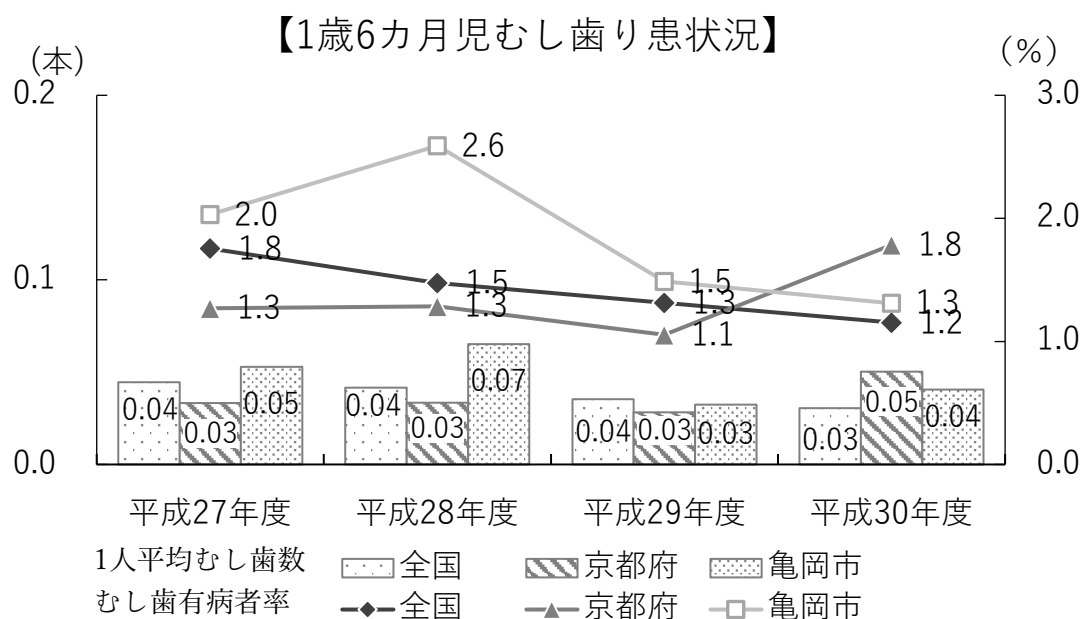
乳幼児の歯科健診受診率は、1歳6カ月児、3歳児ともに、平成26年度以降ほぼ横ばいの状況です。

1人平均むし歯数は、特に3歳児で減少傾向にあり、平成30年度には全国や京都府の割合を下回りました。

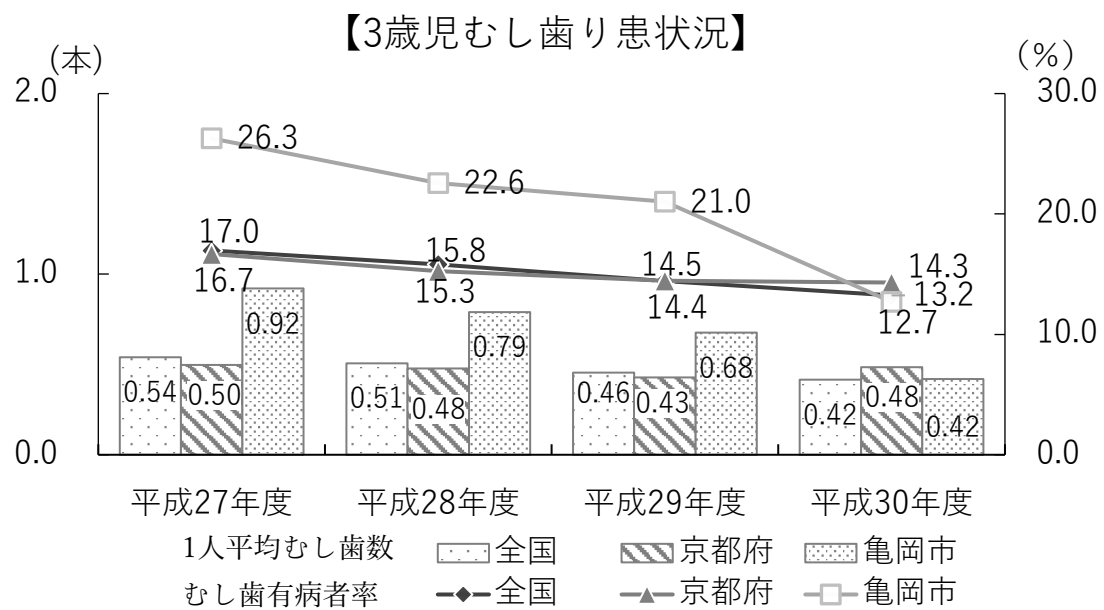
むし歯有病者の割合では、1歳6カ月児、3歳児ともに、全国や京都府と比較し高い割合で推移しているものの、年々減少傾向にあります。



資料：地域保健・健康増進事業報告



資料：地域保健・健康増進事業報告

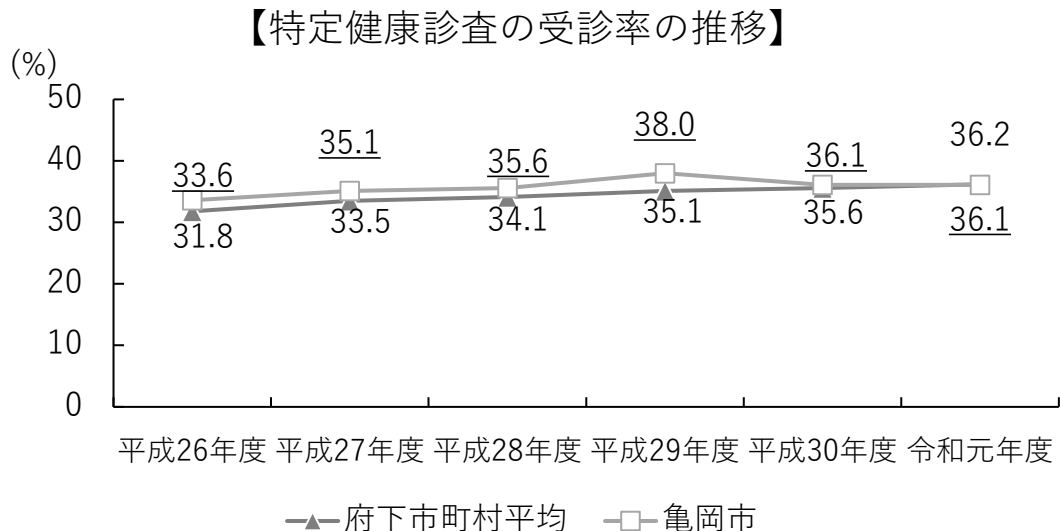


資料：地域保健・健康増進事業報告

＜特定健康診査結果の状況＞

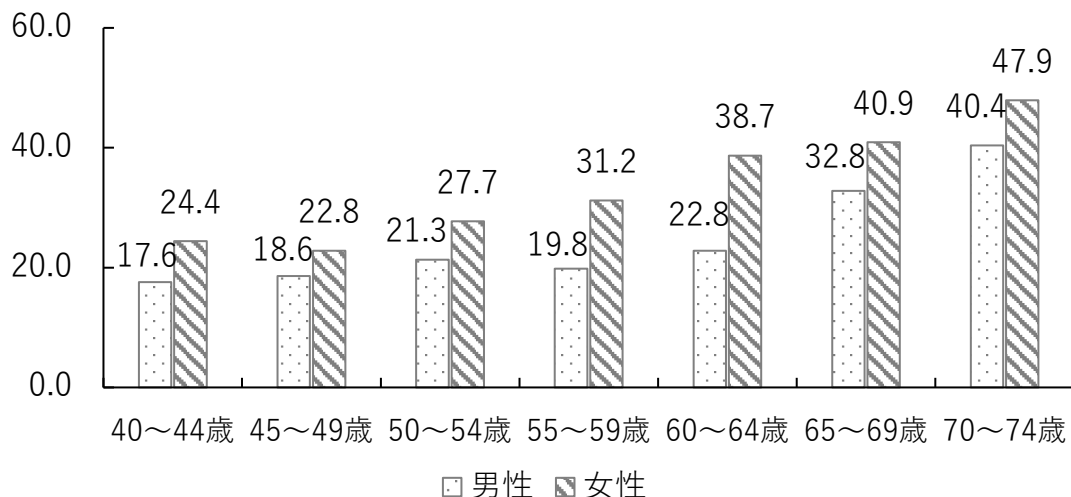
特定健康診査の受診率の推移をみると、亀岡市では年々増加しており、また府下市町村平均と比較するとわずかに上回ってます。

性別年代別では、各年代とも男性より女性が高くなっています。またいずれも年代が上がるにつれ、受診率が高くなっています。



資料：京都府国民健康保険団体連合会

(%) 【特定健康診査 性別年代別受診率（令和元年度）】

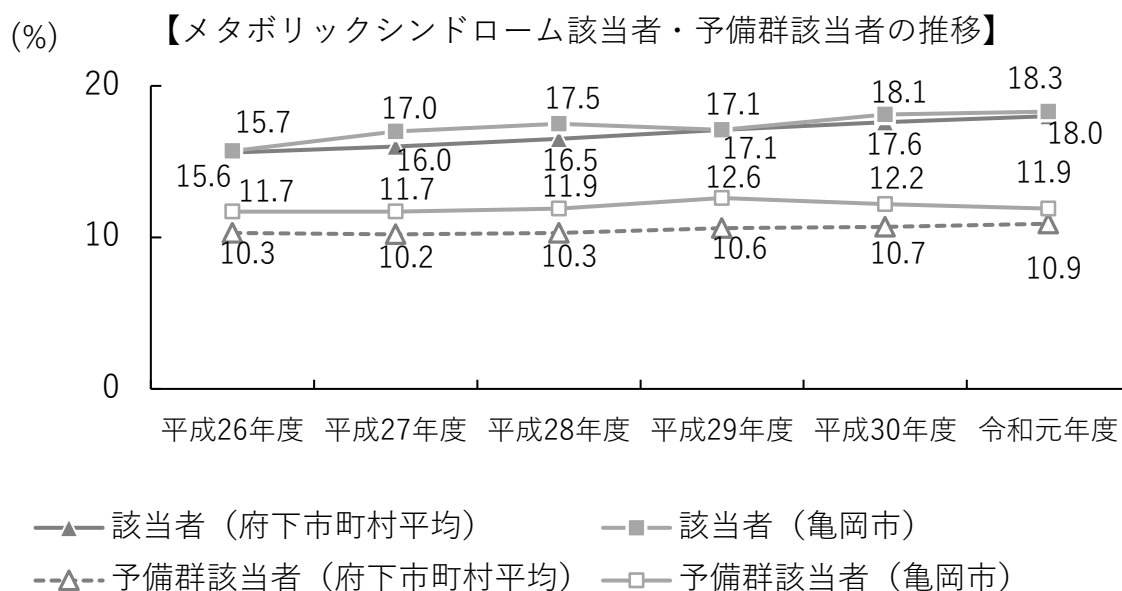


資料：京都府国民健康保険団体連合会

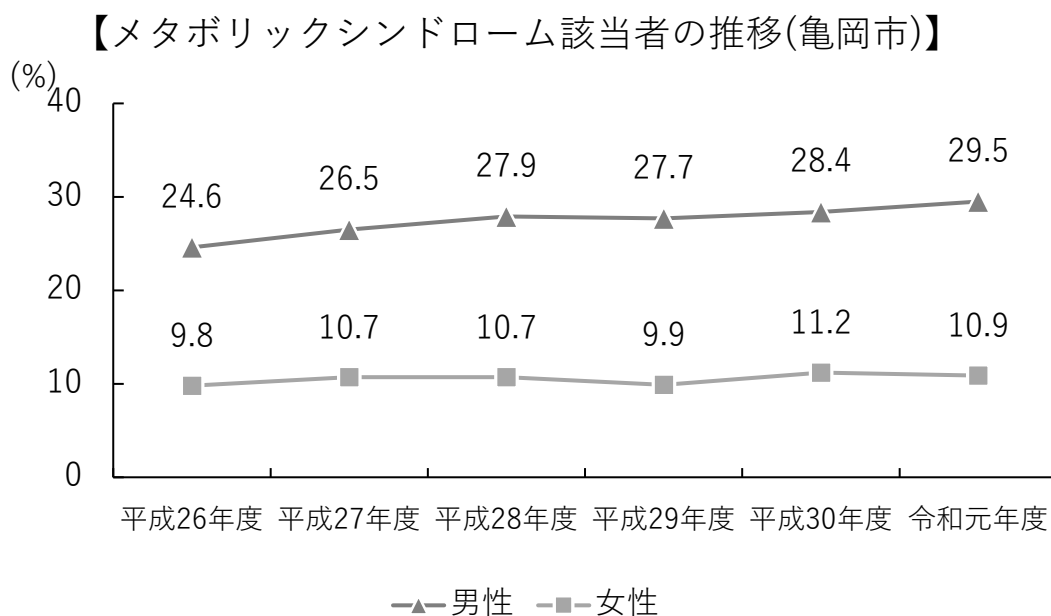
特定健康診査：メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）対策に着目した検査項目について、各医療保険者が40～74歳の加入者を対象に、「病気になる前に生活習慣病のリスクを見つけて予防する」ことを目的として実施する健康診査のこと。

亀岡市の令和元年度（令和2年3月31日末時点）の40～74歳の国民健康保険加入者の割合は、34.8%。

メタボリックシンドローム該当者は、亀岡市では平成 26 年度以降増加傾向にあり、予備群該当者についてはほぼ横ばいで推移しています。また該当者・予備群該当者ともに、府下市町村平均よりも高くなっています。男性と女性では、男性の方が該当者の割合が高くなっています。



資料：京都府国民健康保険団体連合会



資料：京都府国民健康保険団体連合会

6 前期（平成28年から令和2年）の評価

平成28年度からの5年間におけるこれまでの取り組みの内容や目標値の達成状況をアンケート調査などから分析し、評価を行いました。

栄養・食生活

「栄養・食生活」の分野においては、家庭や保育所、学校での正しい食習慣への支援や、地域の団体の活動やイベントのなかで食に関する広報活動、ライフステージに応じた講座や相談等による支援、情報提供などを行いました。

調査結果を見ると、計画策定時よりも改善し概ね目標を達成しています。

野菜の摂取量は、目標に到達していないものの、改善傾向にあり、今後もさらに積極的な取り組みが必要です。

バランスを考えた食事を食べている人は増加しているものの、年代によっては低い状況があります。

身体活動・運動

「身体活動・運動」の分野においては、保育・教育機関等における乳幼児期からの身体活動の取り組みをはじめ、各団体でスポーツの体験事業や介護予防に関する事業や講座、体操やウォーキング事業、ロコモティブシンドロームの周知などを通して普及啓発に取り組みました。

運動習慣のある人の割合は全体でみると目標値を超えていますが、性別や年齢による差が大きいことがわかったため、ライフステージに応じた具体的な取り組みの展開が必要です。

「65歳以上で週3回以上、外出する人の割合」や「“ロコモ”を知っている人の割合」は目標数値に届いていないため、今後も引き続き運動習慣の定着、周知啓発の取り組みが必要です。

休養・こころの健康

「休養・こころの健康」の分野においては、子育ての相談や学校での相談、心身の健康に関する相談に取り組んできました。

調査結果を見ると、「過剰なストレスを感じる人の割合」は改善しているものの、幅広い世代でストレスを感じている状況があります。

「目覚めたときに十分に眠れた感覚がある人の割合」や「ゆったりとした気分で乳幼児と過ごす時間が持てる保護者の割合」は減少しており、様々な世代において、ストレスを感じる人が増えていることがうかがえます。

社会状況の影響を受け、ストレスの内容は多様化しており、相談できる窓口や、周囲の人が変化に気づける環境づくりが大切です。

タバコ

「タバコ」の分野においては、学校での正しい知識の普及や、受動喫煙から子どもを守る環境整備、各種保健事業において、卒煙の支援を行いました。

平成 30 年の健康増進法改正によりルール化された望まない受動喫煙を防ぐ取り組みをすすめました。本市における路上喫煙の規制に関する条例の施行に合わせ、地域や家庭における受動喫煙防止の意識向上に努めました。

調査結果を見ると、「未成年者の喫煙率」は目標を達成しており、「妊婦の喫煙率」も改善しています。しかし、乳幼児のいる保護者の喫煙率が増加しており、この世代に向けた取り組みの強化や、新型タバコの普及に関する正しい知識の普及啓発が必要です。

「COPDを知っている人の割合」は、目標に到達しておらず、タバコの身体に及ぼす影響について一層の周知啓発が必要です。

歯・口腔の健康

「歯・口腔の健康」の分野においては、妊婦や乳幼児、保育・教育機関等における歯科検診、歯周疾患健診等の事業とともに、フッ化物によるう歯予防、介護予防教室での口腔機能向上に取り組みました。

調査結果を見ると、「う蝕有病者の割合」のうち、3 歳児についてはほぼ目標に近づいており、また 12 歳児については、設定した目標を達成したため、新たな目標を設定し、さらに取り組みを推進することとします。

「12 歳児のう歯数」「フッ素塗布の乳幼児の割合」「歯間部清掃用器具の使用者の割合」「定期的に歯科健診を受ける人の割合」「60 歳代で 24 本以上の歯がある人の割合」などいずれも改善しており、今後も引き続き目標に向けて啓発を行い、フッ化物によるう歯予防や高齢期のオーラルフレイル予防の取り組みを進めます。

健康管理

「健康管理」の分野においては、乳幼児健康診査や特定健康診査、各種がん検診の実施啓発、各種健康教室等に取り組んできました。

調査結果を見ると、「定期的に健（検）診を受ける人の割合」は増加しており、目標に向けて、さらに健診の受診勧奨、受けやすい環境づくりを進めていく必要があります。

「早寝早起きをする乳児」は、前回より減少しており、規則正しい生活習慣に向けた啓発の取り組みを進めていく必要があります。

「メタボリックシンドローム該当者の割合」は、計画策定時より増加しており、健康寿命の延伸を図るために生活習慣病の発症や重症化の予防は重要な課題として取り組む必要があります。

新しい感染症の流行は、健康への大きな脅威となり、様々な影響を及ぼしています。手洗いや密集を避けるなどの新しい生活様式の徹底や予防接種等、感染症の予防に取り組むことが重要です。

平成28年度～令和2年度の各団体の取り組み事業

亀岡市医師会

- ・健（検）診の実施・勧奨
- ・健診後の指導の実施
- ・禁煙指導
- ・予防接種の実施・勧奨
- ・市民公開講座

亀岡市歯科医師会

- ・歯科指導・啓発活動の実施
- ・禁煙指導
- ・歯のひろばの実施
- ・歯科検診の実施・勧奨

亀岡市薬剤師会

- ・禁煙指導
- ・高齢者向けの勉強会への講師派遣
- ・健康サポート薬局でのサロン開催

亀岡市老人クラブ連合会

- ・健康ウォーキング
- ・公式わなげ講習会
- ・グラウンド・ゴルフ大会等イベントの開催

亀岡市社会福祉協議会 (亀岡市子育て支援センター)

- ・相談事業の実施
- ・ひろば事業・つどい事業の実施
- ・啓発の実施
- ・身体測定

亀岡市障害児者を守る協議会

ソフトバレーなど運動を通じての身体づくり

亀岡市学校保健会

- ・亀岡市健康づくり絵画募集・展示・表彰
- ・研修の実施

亀岡市PTA連絡協議会

- ・小学校部会・中学校部会
- ・家庭教育委員会学習会
- ・子育て講演会
- ・市PTA研究大会等での知識の普及

亀岡市公立保育所 所長会

- ・食育、給食に関すること
- ・健康観察、健診
- ・子育て支援、子育て相談
- ・受動喫煙防止の啓発

南丹保健所

- ・食環境・運動普及・タバコ環境・歯の健康8020推進部会の開催
- ・食育（「なんたん・かんたん・やさい料理」レシピの普及、食育キャンペーンの実施等）
- ・各種イベント・教室の開催（運動普及イベント、なんたん元気づくり体操リーダー養成講座、防煙教室、歯の衛生週間街頭啓発、けんこう食堂化プロジェクト等）
- ・各種啓発活動、相談事業の実施

平成28年度～令和2年度の行政の取り組み事業

子育て支援課

乳幼児期における食育・身体活動への支援
各種乳幼児健診、育児・発達相談、教育の実施等

学校教育課

栄養教諭による栄養指導、部活動、スクールカウンセラーによる相談の実施、喫煙・薬物乱用防止の指導、フッ化物洗口の実施等

保険医療課

特定健康診査
後期高齢者健康診査等
歯周疾患検診
人間ドック・脳ドック

高齢福祉課

介護予防拠点活動事業、高齢者を対象とした相談等

社会教育課

高齢者さわやか教室、家庭教育、社会教育に関する教室開催等

生涯スポーツ課

スポーツに関する各種イベント、体験教室等の開催、スポーツ観戦事業等

農林振興課

食農学習推進事業（食育）、地元産農作物利用推進事業、料理教室、イベントの実施等

健康増進課

健康いきいきフェスティバル、ライフステージ毎の各種健(検)診、特定保健指導、健康教室・相談等、イベントにおける啓発、予防接種等
介護予防に関する教室、出前健康講座

平成28年度～令和2年度かめおか健康プラン21（第2次亀岡市健康増進計画）に係る取組状況調書より